

處に、此度之儀は被爲成御赦免候。向後不遁者亦は如何様之牢人にて抱置於申者、其由緒改、早速寺社御奉行迄可及御理旨、重て被仰出候趣畏奉存候。互無油斷吟味仕、牢人抱置候者、見聞次第に急度可申上候。若於隱置者、連判之寺中越度可被仰付候。爲其組を立御請上げ申候。以上。

承應四年正月廿八日 といはら町法然寺 判

桶屋町妙恩寺

茨木右衛門殿

山森吉兵衛殿

此の外數十通ありといへども皆同文也。故に爰に略しぬ。右は由比正雪等の事に付き、慶安四年八月他國牢人縮方の達し有之處、慈雲寺に之を抱え置きし故也。

小松能順の聯玉集に、金澤慈雲寺日祥隱居せしに。

夏山は木の本住のこゝろ哉

當寺は天正年中の創立にて、古畫古作の佛像等今に傳來すといへども、舊記・古文書等はなし。寺の來歴書の寫あるのみ。則ち左に載之。

當寺由緒之寫

一、拙僧屋敷之儀、能州所之口に檀方富田治部左衛門・今井彦右衛門罷在候時、從大納言様所之口に而二千三百歩餘之屋敷拜領仕、慈雲寺建立被仕候。然共兩人被相果候而、一門御當地罷在候故、卯辰山之麓に罷在候。居屋敷拜領に而無御座候、請地に仕罷在候。于今能州之屋敷拜領地分に而御座候。以上。

慶安元年十二月廿一日

慈雲寺

由來就御尋申上候。

一、當寺開闢は、天正五年に富田治部左衛門・今井彦右衛門兩人之且那建立仕候。當年迄九拾九年に罷成候。開山は日祐与申僧に而御座候。

一、當時先屋鋪者、能州所之口に而二千三百五拾歩、從高德院様拜領仕罷在候所に、御用地に罷成、替地七尾近所小嶋に被下罷在申候得共、元和元年に富田故越後御當地に引越申に付、當寺も引越、只今は卯辰山請地に居住候。

一、能州小嶋拜領屋鋪之儀は、御當地に罷越候以後、明曆二年迄百姓に貸置申候處に、微妙院様御代津田宇右衛門明

曆二年に檢地御入、地子地に被仰付、御當地并小嶋兩所共に地子指上申段難儀奉存、明曆三年に津田宇右衛門の方迄御斷申上、小嶋屋鋪指上申候。

右之外由來并縁起・寄進狀等無御座候。以上。

金澤卯辰法華宗

貞享二年九月廿九日

雨寶山慈雲寺日祥

當寺毘沙門天由來書

前田家六世參議中將吉徳公之御四男上總介利見君之守本尊毘沙門天は、御信敬之尊像之處、元文三年八月御預け被成、毎歲一度充、十月御城中へ指上、御拜禮被爲在、一七日程づ、御指留に而、當寺に御歸座有之候。然處利見君之御兄正四位下權中將重熙公、寶曆三年四月十二日逝去被成、世子無之に付、御弟上總介利見君御養世子に幕府へ御願被成、寶曆三年四月十日養世子に御立有之、同年五月十八日重熙公之御遺跡御相續被成、正四位下權少將兼加賀守に御拜任、將軍家之御實名一字御拜領に而、御名重靖と御改被成、八月十六日江戸御發駕、九月朔日御入國御着城。依之翌二日毘沙門天之尊像御城中へ御引上、御拜禮被爲

在。此時尊像之御膳部をば、御母堂善良院殿より御寄附被成、其御膳部則今に傳來也。且毘沙門堂をば、御母堂善良院殿より御造立被成、御祈禱之本尊与被爲成、寶曆四年三月善良院殿より文字金小判三拾兩御寄附被成、毘沙門天爲御祈禱料祠堂金に備置、右利金を以永世御祈禱可仕由被仰付、則右金子祠堂銀裁許へ指出、永々祠堂料に相備候事。

右由來書等、舊藩中の事蹟に付き、今全文をば爰に記載して後證に備へたり。自餘の佛像等の事は略す。

○卯辰法華宗寺院

金澤市中諸宗寺院の内、法華宗寺院は多分卯辰山の麓にありて、慈雲寺より以北に集居す。卯辰本光寺に傳來せる、寛延二年二月に取調べ記載せし卯辰法華宗諸寺の組合寺號書は如左。

京妙顯寺末、拜領地河北郡金澤卯辰

普香山蓮昌寺

右同斷、地子地同所

本學山蓮覺寺

京本能寺末、拜領地同所

長昌山妙久寺

瀧谷妙成寺末、拜領地同所

松倉山本法寺